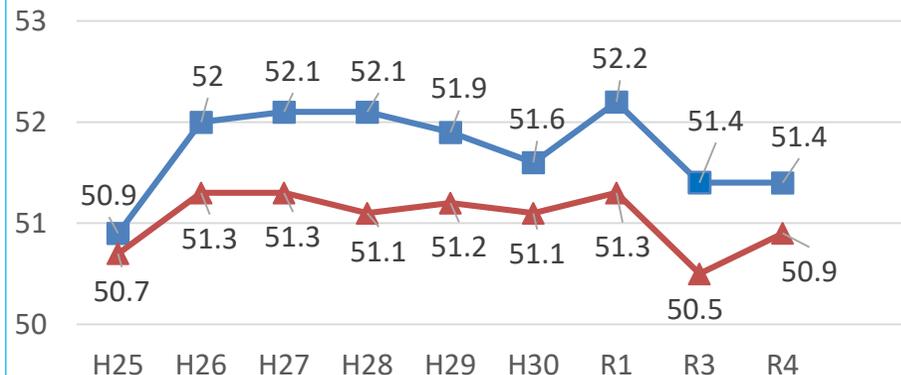


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化

■知識 ▲活用



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	77.9	74.8	71.8
思考・判断・表現	53.7	52.1	51.8
主体的に学習に取り組む態度	44.0	42.1	43.9

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
物質・エネルギー	60.4	57.9	57.9
生命・地球	72.4	70.0	66.8

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	74.3	71.5	68.8
短答	56.7	54.8	55.0
記述	45.8	44.2	43.3

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

つまずきが見られた問題

大問12(3) 県正答率23.0% 県無解答率16.4%

★小学校4年「すがたを変える水」

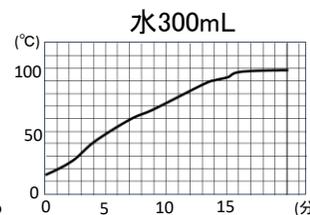
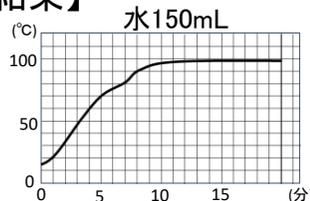
料理のために、2つの同じ鍋で湯を沸かしていたところ、水が少ない鍋の方が早く沸騰することに気付いた。

《Aさんの考え》 火は同じ強さだったから、水の量によって沸騰する温度が違おうと思う。水が多いと100℃よりも高い温度で沸騰すると思う。

【実験】

- ①水の量を150mLと300mL入れたビーカーを準備した。
- ②同じ火の強さで加熱し、1分ごとの温度の変わり方を調べた。

【結果】



問題 水300mLの時は100℃で沸騰し、右の結果になった。このことから、水を熱したときに水が沸騰するまでの時間や温度と、水の量との関係について、どのようにいえるか。「時間」、「温度」という言葉を使って書きましょう。

正答 (例)水の量がふえると、水が沸騰するまでの時間は長くなるが、沸騰する温度は変わらない。

誤答 (例)時間が16分まで温度が上がり、100℃で沸騰する。
 → 指定語句を使っているが、グラフを読んでいるだけ。

◆ 指導のポイント

- ① 予想や仮説の発想、検証計画の立案の場面
 予想が確かめられた場合に得られる結果について、見通しをもつことができるようにする。
- ② 考察、結論の導出の場面
 予想と結果を関係付けながら、どんなことが言えるかを自分の言葉で表現できるようにする。

★ 指導の具体例

事象に対しての児童の気づきは様々であるため、教師の問いかけや対話を通して、何のために何を調べるのか、予想が正しければどんな結果になると考えられるか等、視点を明確にしておく。

予想や仮説の発想、検証計画の立案時の問いかけの例

- 先生 「Aさんの考えを確かめるためには、どのようにして調べたらいいかな？」
- 児童B 「水の量が多いものと少ないもので沸騰する時の温度を調べたらいいと思う。」
- 先生 「調べるのは温度だけでいいかな？」
- 児童C 「どっちが早く沸騰するか、時間も調べたらどうかな。」
- 先生 「他の人はどうかな？」
- 児童 「Cさんが言ったように時間も調べて、前の実験の時のようにグラフを書いたらいいと思う。」
- 先生 「みんなはどう？その方法でいい？」
- 「では、この実験で、Aさんの考えが正しかったとしたら、どんな結果(グラフ)が予想されるかな？

※予想が正しかったとしたら得られる結果について、見通しをもたせておく。